

令和5年度

SYLLABUS

～ Approach to Studying ～

2年 生活デザイン科



香川県立高松南高等学校

はじめに

皆さんは、マンガを読みますか？テレビやパソコンでゲームをしますか？

マンガやゲームが生活に深く根付いている今、マンガを読んだことやゲームをしたことのない人を捜すのは至難の業でしょう。中には、自分の時間のほとんどを、マンガやゲームに費やす人もいたりして…。

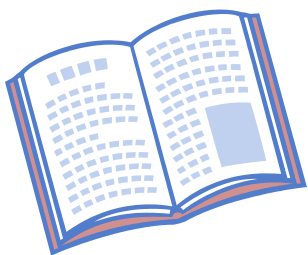
ところで、なぜ、マンガを読んだりゲームをしたりするのか考えたことがありますか。何人かの生徒に聞いてみると、「面白いから」とか「ストレス解消」という答えが返ってきました。しかし「なぜ、そんなことを聞くのか」と、逆に質問されてしまいました。楽しいことに対して「なぜそれをするのか」と聞くことが、そもそも不思議だったようです。

では、勉強についてはどうでしょう。「なぜ勉強しなければいけないのか」、「こんな勉強をして何になるのか」。そう思ったことはありませんか。この質問にズバリ答えるのはとても難しいことです。考古学者の平賀・キートン・太一氏は、閉鎖されるパリのシモンズ社会人学校の冬季セミナー最後の講義で、「人間は一生学び続けるべきです。人間には好奇心、知る喜びがある。肩書きや、出世して大臣になるために学ぶのではない。それが人間の使命だからです。」と本質的理由を受講生に語っています。少し考えてみても、テストに出る、成績が上がるとお小遣いも上がるなどの外発的理由や、将来の仕事に役立つ、分かれると充実感があるなどの内発的理由まで様々でしょう。

シラバス (Syllabus) の語源はギリシャ語の「Sittuba」で、元々は羊皮紙製の書籍ラベルのこと。明治時代には「教授要目」などと訳されていたようです。ページをめくっていただければお分かりのように、本校のシラバスは、科目の概要や学習目標、授業計画、学習方法など、履修や選択するために必要な情報をコンパクトにまとめています。

高等学校での学習の基本は「授業」。もちろん家庭学習も大切ですが、毎日の「授業」をないがしろにして、家庭学習は成立しません。

折に触れ、シラバスのページをめくってください。きっと、授業を通して何をどう学ぶのかを考える手助けになるはずです。



参考文献：『開かれた学びへの出発』市川伸一（金子書房）

『MASTER キートン』勝鹿北星（小学館）

生活デザイン科

◎科の目標

- ・家庭の各分野に関する専門性の基礎・基本の知識と技術を学び、生活産業の社会的な意義や役割を理解し、社会の発展を図る創造的な能力と態度を身につけた人材の育成を目指します。
- ・「フードデザイン」「服飾文化」「保育基礎」「生活産業情報」「課題研究」「さぬきの生活伝承」「生活産業基礎」等を学習します。
- ・2年次よりコースを選択し、「健康栄養コース」「服飾デザインコース」「保育子ども文化コース」の3コースに分かれて学習します。

◎資格取得、進路

- ・家庭技術検定（食物・被服・保育）、秘書技能検定、ビジネス文書実務検定
- ・大学、短大、専門学校への進学、各種企業への就職

①健康栄養コース

◎「調理」「フードデザイン」「栄養」「食品」など食物に関する専門的な知識・技術を学習します。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年	現代の 国語	言語 文化	公共	数学 Ⅰ	科学 と 人間 生活				体育	保健	芸術Ⅰ	英語コミュニ ケーションⅠ		家庭総合					生活 産業 基礎	服飾文化							フード デザ イン	L H R		
2年	文学 国語	地理 総合	数学Ⅰ	体育	保健	芸術Ⅰ		英語コ ミュニ ケーションⅡ	論理・ 表現Ⅰ	生活 産業 情報	保育 基礎	服飾 文化	フードデザ イン						調理							さぬき の生 活伝 承	L H R			
3年	文学 国語	歴史 総合	政治 経済	数学A	化学基礎 生物基礎			体育	英語コ ミュニ ケーションⅡ	課題研究			調理						栄養	食品						食文化 生活教養 和	L H R			

②服飾デザインコース

◎「ファッションデザイン」「ファッション造形」「服飾手芸」など被服に関する専門的な知識・技術を学習します。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年	現代の 国語	言語 文化	公共	数学 Ⅰ	科学 と 人間 生活		体育	保健	芸術Ⅰ	英語コ ミュニ ケーションⅠ	家庭総合			生活 産業 基礎	服飾文化			フード デザ イン	L H R											
2年	文学 国語	地理 総合	数学Ⅰ	体育	保健	芸術Ⅰ	英語コ ミュニ ケーションⅡ	論理・ 表現Ⅰ	生活 産業 情報	保育 基礎	ファッション 造形基礎			ファッ ション デザ イン	フード デザ イン	さぬき の生 活伝 承	L H R													
3年	文学 国語	歴史 総合	政治 経済	数学A	化学 基礎 生物 基礎	体育			英語コ ミュニ ケーションⅡ	課題研究			ファッション造形			服飾 手芸	食文化 生活教養 和	L H R												

③保育子ども文化コース

◎「器楽演奏」「保育実践」「服飾文化」「フードデザイン」など保育に関する基礎的な知識・技術を学習します。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
1年	現代の国語		言語文化		公共		数学Ⅰ		科学と人間生活		体育		保健		芸術Ⅰ		英語コミュニケーションⅠ			家庭総合				生活産業基礎		服飾文化			フードデザイン		LHR
2年	文学国語		地理総合		数学Ⅰ		体育		保健		芸術Ⅰ		英語コミュニケーションⅡ		論理・表現Ⅰ		生活産業情報		保育基礎		保育実践			服飾文化		フードデザイン		さぬきの生活伝承		LHR	
3年	文学国語		歴史総合		政治経済		数学A		化学基礎 生物基礎		体育		英語コミュニケーションⅡ		課題研究				保育実践			フードデザイン		食文化 生活教養 和		器楽演奏		LHR			

教科 国語

科目 文学国語

対象 2年生 生活デザイン科

単位 3

主な授業形態 座学

目 標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長の プロセス	ジャンプ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの80%以上理解できる。 ○他の考え（作品の主題や筆者の考え）と自分の考えを比較検討し、新しい考えや発想を生み出せる。(読む) ○作品の背景や他の作品などとの関係を踏まえて、作品を解釈したり、評価したりできる。(読む) ○読み手が理解しやすく、場に応じた表現ができる。(書く)	○言葉の特徴や使い方、言語文化に強い興味や関心を持ち、理解しようとする強い意欲がある。 ○自ら言葉を使って他者に関わろうという強い意欲がある。
	ステップ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの65%以上(80%未満)理解できる。 ○作品そのものの内容を解釈したり、評価したりできる。(読む) ○自分の伝えたいことを、まとめたり、伝えたりできる。(書く)	○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持ち、理解しようとする意欲がある。 ○言葉を使って他者に関わろうという意欲がある。
	ホップ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの40%以上(65%未満)理解できる。 ○教師等による解説や助力を頼りに、作品そのものの内容をある程度解釈したり、評価したりできる。(読む) ○自分の伝えたいことを、ある程度まとめたり、伝えたりできる。(書く)	○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持とうとし、理解しようとしている。 ○言葉を使って他者に関わろうとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「文学国語」（東京書籍）

副教材 「学習課題ノート」（大修館書店） 「新版六訂カラー版 新国語便覧」（第一学習社）
「漢字の学習」（香川県高等学校国語教育研究会）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	●随筆「光の窓」等 ●小説「山月記」等
2 学期	●詩歌： 詩 「永訣の朝」等 ●小説「こころ」等
3 学期	●詩歌：短歌「硝子の駒…」等 ●小説「あの朝」等

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。
- ・ 「聞く・話す」、「書く」、「読む」のそれぞれの力について、自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・ 板書を写し取るだけでなく、自分の考えや感想、疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫をしたノート作りをする。
- ・ 提出物は丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。
- ・ 読書を習慣化するなど、日常生活の中に「読む・書く・話す・聞く」を積極的に取り入れる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート ・感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	高校での国語の学習の基本となる科目です。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目 標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
観点別：A ジャンプ △ 評価：5	世界の地域的特徴を、自らの生活や日本と比較することができる。		
	○世界の地域的特徴を自らの生活や、日本と比較したり、結びつけながら深く理解している。 ○主題図やグラフ・表などを自らの力で正確に読み取ることができる。 ○自らの力で効果的に主題図やグラフ・表を表現できる。 ○学びを深めるために必要な情報に気づき、それを自ら収取できる。	○論理的に討論や議論をすることができる。 ○主題図・グラフなどを用いて効果的に自分の考えを表現できる。 ○多面的・多角的に考察したり、評価したり、自分の考えを持つことができる。 ○自分の考えを文章で論理的かつ的確に相手に伝えることができる。	○日常生活や他教科で学んでいることと結びつけることができる。 ○常に創意工夫し、課題を解決しようとする。 ○自分の人生との関わりを意識しながら学習に取り組むことができる。 ○常に学習態度が主体的・対話的で、より深く学び続けようとしている。
観点別：B ステップ △ 評価：4	世界の地域的特徴を、日本と比較することができる。		
	○世界の地域的特徴を日本と結びつけながら理解している。 ○主題図やグラフ・表などを自らの力で読み取ることができる。 ○自らの力で主題図やグラフ・表を表現できる。 ○学びを深めるためには新しい情報が必要なことに気づくことができる。	○自らの言葉で討論や議論をすることができる。 ○主題図やグラフ・表を用いて自分の考えを表現できる。 ○教師の必要最小限の助力によって多面的・多角的に考察したり、評価したり、自分なりの考えを持つことができる。 ○自分の考えを文章で相手に伝えることができる。	○身の回りの生活と関連付けて学ぼうとしている。 ○学び方や取り組み方を改善し、学び続けようとする。 ○自分の進路目標との関わりを意識しながら学習に取り組むことができる。 ○学習態度が主体的・対話的で、学び続けようとしている。



観点別：C

ホ
ッ
プ

評定：3

世界と自らの生活や日本とのつながりを理解することができる。

○世界の地域的特徴について基礎的・基本的な内容を理解している。

○教師等の助力があれば主題図やグラフ・表などに含まれている地理的情報を読み取ることができる。

○教師等の助力があれば主題図やグラフ・表を表現できる。

○教師等の助力があれば、学びをさらに深めるためには、新しい情報が必要なことに気づくことができる。

○教師等の助力があれば、討論や議論をすることができる。

○教師等による個別の助力があれば、主題図やグラフ・表を用いて自分の考えを表現できる。

○教師等による個別の助力があれば、深く考察をしたり、自分なりの考えを持つことができる。

○教師等の助力があれば文章で自分の考えを相手に伝えることができる。

○基礎的・基本的な地理的知識や技術、考察力を身につけようとしている。

○学習内容をさらに理解するために学び方を改善しようとする。

○教師の助力があれば進路実現に向け、学習に取り組むことができる。

○学習態度が主体的で、提出物などを期日までに自分の力でやりきることができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新地理総合」（帝国書院） 「新詳高等地図」（帝国書院）
副教材 「新地理総合ノート」（帝国書院）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1 学期	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1節 地図上の位置と時差 2節 地図の役割と種類 第2章 結び付きを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界 第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活 3節 世界の言語・宗教と人々の生活
2 学期	4節 歴史的背景と人々の生活 5節 世界の産業と人々の生活 第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題 3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題 5節 食料問題
3 学期	6節 都市・居住問題 第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え 第2章 生活圏の調査と地域の展望 1節 生活圏の調査と地域の展望

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切に、板書された事柄だけでなく、先生の補足説明も書く習慣を身に付けるようにする。
- ・主題図の作成などの作業には丁寧に取り組むようにする。
- ・普段から地図帳に目を通し、的確な世界地図を思い描けるようにしておく。
- ・普段から新聞等に目を通し、国際社会の動向を的確に掴んでおく。
- ・地図やグラフ、表などの資料から論理的に考察する習慣を身に付けるようにする。
- ・自ら地理的な課題を見つけ、自分の考えをまとめ、発表できるようにしておく。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランス良く身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

教 科	数学	科 目	数学 I	対 象	2 年生 生活デザイン科
単 位	2	主な授業形態	座学		

目 標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数と式，二次関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数
学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
(知識及び技能)
- (2) 命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，関
数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する
力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しよ
うとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度
や創造性の基礎を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○公式・法則，用語などを理解し，導くことができる。 ○副教材の応用問題の解法を理解している。	○十分に数理的に考察する力を付けている。 ○応用問題の解法を自分の言葉で表現し，記述できる。	○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 ○副教材の応用問題に積極的に取り組む。
△ ステップ	○基本的な概念，原理・法則，用語・記などを理解している。 ○副教材の基本的な内容をおおむね理解している。	○おおよその数理的に考察する力を付けている。数を拡張することに興味を持つ 等。 ○基本問題の解法を自分の言葉で表現し，記述できる。	○教科書で学んだ範囲に対し，副教材で復習を行う。 ○提出課題等，計画的に行っている。 ○自分の学び方を振り返りながら調整し，学び続けようとする。



ホップ

○数学用語・公式を理解し、教師の説明を受けたり、例題を参考にしたりしながら練習問題に取り組む。

○教師の説明を参考にし、公式成立の理由を理解しようと努める。
○社会生活において、数学が役割を果たしていることへの興味関心を高める。

○板書を写すだけでなく、教師の説明をメモするなど自分のノートを作る。
○課題等、やるべきことを、期限までに自分でやりきろうとする。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「数学Ⅰ Essence」 （東京書籍）

副教材 「ニュージャスト数学Ⅰ」 （東京書籍）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	3 章 三角比 1 節 鋭角の三角比
2 学期	2 節 三角比の応用 4 章 集合と論証 1 節 集合と論証
3 学期	5 章 データの分析 1 節 データの分析

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として、教科書を読み、疑問点をチェックしておく。（なぜ？なに？を大切に）
- ・ 積極的な態度で授業に臨み、授業で何がわかったかできるようになったかを復習するため、問題集を解く習慣をつける。（反復練習）
- ・ 板書を写し取るだけでなく、自分が考えるときのポイントや疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫してノートを取る。
- ・ 疑問点については、授業中に質問する、あるいは休み時間などを利用して先生に質問するなどして早めに解決する。
- ・ 教科書や問題集の基本問題を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。（復習）

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ 小テスト ・ 定期考査	・ 定期考査 ・ 小テスト ・ 授業における発表や成果物 ・ ノート ・ 長期休業中の課題	・ ノート ・ 振り返りシート、感想 ・ 学習活動への取り組み ・ 長期休業中の課題
比重	4	4	2

	数学の学習の基礎となる基本的な「知識・技能」と「思考・判断・表現」の確実な習得を図るために、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。
--	---

目 標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○各種目の高度な技を身に付けたり、記録の更新に挑戦したり、仲間に感動を与えられる表現ができる。 ○ゲームのルールや役割に応じた練習方法を工夫し、全員で楽しむためのルールの調整ができる。	○学んだ知識・技能を用いて、自己や仲間の課題解決のために効果的な練習方法を実践することができる。 ○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を合理的・計画的に考察し、自分の考えを持つことができる。	○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイを大切にできる態度が定着している。 ○怪我等を回避するための、適正な運動量や、とるべき行動を認識し、さらに他者への注意喚起を促す言動や行動により健康・安全を確保することができる。
ステップ	○各種目の技を身に付けたり、記録に積極的に挑戦したり、感情を込めて表現したりすることができる。 ○ゲームのルールを理解し、教師や仲間からの助言をもとに、練習方法を考えることができる。	○学んだ知識・技能を用いて、自己や仲間の状況に応じた適切な練習方法を実践することができる。 ○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を最小限の助言によって理解し、自分なりの考えを持つことができる。	○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイをしようと心がけている。 ○怪我等を回避するための、適正な運動量や、とるべき行動を認識し、健康・安全を確保することができる。



ホップ

○各種目の技を身に付けようと努力したり、記録に挑戦したり、表現したりすることができる。
○与えられたルールを概ね理解し、教師や仲間による見本や練習方法をもとに、体力の高め方を理解する。

○教師や仲間の助言があれば、自己の状況に応じた練習方法を実践することができる。
○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を教師等の個別の解説や助言によって理解し、自分なりの考えを持つことができる。

○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、教師からの助言があれば相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイに取り組む様子がみられる。
○教師からの助言があれば、怪我等を回避するための、運動量や、とるべき行動を認識し、健康・安全に努める。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新高等保健体育」 （大修館書店）

副教材 「ステップアップ高校スポーツ」 （大修館書店）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	・体づくり運動 - 選択① 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道
2 学期	・体づくり運動 ・体育理論 - 選択② 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道 ・持久走
3 学期	・体づくり運動 ・持久走 - 選択③ 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切にして、教師や仲間のアドバイスを聞いて、技能を高める習慣を身につけるようにする。
- ・実技教科のため、欠席をせずに、課題に粘り強く取り組む。
- ・仲間と協力して、練習やゲーム、発表会に取り組む。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・スキルテスト ・ルールテスト ・体育理論テスト	・振り返りシート	・振り返りシート、感想
重みづけ	2 1 1		
	実技教科のため、基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。		

目 標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について個人、またはグループで課題を設定し考察することで理解を深めることができる。 ○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について個人、またはグループで課題を設定し考察することで理解を深めることができる。	○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について課題を発見し、健康に過ごすための方法を、自ら思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 ○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について理解し、自分の考えを持つことができる。	○生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組むことができる。 ○健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組むことができる。
ステップ	○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について理解することができる。 ○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について理解することができる。	○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について課題を発見し、健康に過ごすための方法を、最小限の助言によって、思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 ○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について教師の解説や助言により理解し、自分なりの考えを持つことができる。	○生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。 ○健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

ホップ

	○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について教師の解説や助言により理解することができる。 ○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について教師の解説や助言により理解することができる。	○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について課題を発見し、健康に過ごすための方法を、教師等の助言があれば、思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 ○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について教師の解説や助言により理解し、自分なりの考えを持つことができる。	○生涯を通じる健康についての学習に教師からの助言があれば、取り組もうとしている。 ○健康を支える環境づくりについての学習に教師からの助言があれば、取り組もうとしている。
--	---	---	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新高等保健体育」（大修館書店）
副教材 「新高等保健体育ノート」（大修館書店）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容		
第3章 生涯を通じる健康		
1学期	① 思春期と健康 ② 性意識の変化と性行動の選択 ③ 結婚生活と健康 ④ 妊娠・出産と健康	⑤ 家族計画 ⑥ 加齢と健康 ⑦ 高齢社会に対応した取り組み
第3章 生涯を通じる健康 第4章 健康を支える環境づくり		
2学期	⑧ 働くことと健康 ⑨ 労働災害の防止 ⑩ 働く人の健康づくり ⑪ 大気汚染と健康 ⑫ 水質汚濁・土壌汚染と健康	③ 健康被害を防ぐための環境対策 ④ 環境衛生に関わる活動 ⑤ 食品の安全性と健康 ⑥ 食品の安全性を確保する取り組み
第4章 健康を支える環境づくり		
3学期	⑦ 保健制度とその活用 ⑧ 医療制度とその活用 ⑨ 医薬品の制度とその活用	⑩ 様々な保健活動や対策 ⑪ 誰もが健康に過ごせる社会にむけた環境づくり

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・実生活に結びつけて、それぞれのテーマを学習する。
- ・グループ学習等を通して、他者とのコミュニケーションを図り、知識を定着させる。
- ・ワークシートやノートを活用して、用語の理解や発問に対して答えられるようにする。
- ・教師のアドバイスを聞いて、課題に粘り強く取り組む。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ノート ・定期考査	・授業における発表や成果物 ・ノート ・定期考査	・振り返りシート、感想 ・ノート ・定期考査
重みづけ	2 1 1		
	保健の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。		

教 科	芸術	科 目	音楽Ⅰ	対 象	生活デザイン科 2年生 選択者
単 位	2	主な授業形態	座学・実技		

目 標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などのかかわり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 主体的・協同的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○グループ全体を見ながら、獣人に助言をしつつ、課題を完成させることができる。 ○鑑賞で学んだことを、実技でも応用できる。 ○授業で学んだことを、書籍やインターネットも活用して、理解することができる。	○教師による助言を受けずとも、自分の力で課題に取り組むことができる。 ○ノートやワークシートについて、これまでの授業や中学校までの経験を生かして、多角的に取り組むことができる。	○創意工夫をして作品を完成させることができる。 ○様々なジャンルの音楽に振れ、知識の幅を広げたり、深く考えたりできようとする。
ステップ	○自分の力や友人教師の助言を受けながら読譜し、課題を完成させることができる。 ○現在の課題について、過去の授業と関連付けて理解することができる。	○時間内で課題に取り組み、作品を完成させることができる。 ○ノートやワークシートについて、自分なりの言葉でまとめることができる。	○自分や周りの出している音を注意深く聞き、他者に伝える力を高めようとする。 ○自分の学び方を振り返りながら、学び続けようとする。 ○授業で学んでいる曲を進んで鑑賞している。
ホップ	○ト音譜表、ヘ音譜表の音符をそのまま読む、もしくは階名を振って読むことができる。 ○授業の内容を、資料を参考にしながら理解できる。	○教師による助言を参考にし、課題に取り組むことができる。 ○ノートやワークシートについて、最低限授業で求められることができる。	○提出物や課題等、やるべきことを期日までに自分でやりきろうとする。 ○自分の学び方を振り返り、直すべきところは改善しようとする。 ○普段から音楽に親しんでいる。

成長のプロセス

--	--	--	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「MOUSA1」（教育芸術社）

副教材 「Music Note」（啓隆社）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学 期	歌を歌おう ・校歌及び簡単な独唱、合唱曲を歌う。可能ならグループ学習へ移行。 楽器にふれよう ・鍵盤楽器や簡易な打楽器を演奏する。可能ならグループ学習へ移行。 指揮してみよう ・平易な曲を使用し、基本的な図形を振る。フェルマータを振る。 様々な楽器の音色に親しもう ・鑑賞をすることにより、管楽器や弦楽器の音色に親しむ。楽器の特性を知る。
2 学 期	一人で演奏しよう ・夏休みの課題を発表する。 表現を工夫してギターの重奏をしよう。 ・「シチリアーナ」の2～3重奏をする。 日本や諸外国の様々な楽器にふれよう ・和楽器や諸外国の民族楽器の音を出してみる。 総合芸術や楽器編成について知ろう ・歌劇や2～4管編成の管弦楽曲等を鑑賞することにより、スコアリーディングをする。
3 学 期	フランスの作曲家について生涯と作品をたどろう ・ドビュッシーやラヴェルの生涯をたどりながら、作品の特徴を理解し魅力を味わう。 創作を含めた様々なアンサンブルに取り組もう ・ハンドクラップや合唱奏をグループで取り組む。各グループに応じたアレンジを行う。 ギター以外の弦楽器にふれる ・ヴァイオリンの開放弦を弾き、ボーイングのアップとダウンの違いを知る。

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業時間を大切にして、毎回の授業に熱心に取り組む。
- ・グループ学習は、メンバーと協力して発表に取り組む。
- ・提出物に関しては、締め切りを守って提出する。
- ・器楽、声楽、創作（楽典含む）、鑑賞とまんべんなく取り組むので、苦手意識を減らす。
- ・書籍やインターネットなどを活用し、普段から音楽について深い考察を心がける。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

評価の材料	・実技テスト ・鑑賞の感想（ノート） ・ワークシート ・レポート	・実技テスト ・鑑賞の感想（ノート） ・ワークシート ・レポート	・ノート ・自己評価、他己評価 ・ワークシート
重みづけ	2 : 2 : 1		
	音楽の学習の基礎となる演奏力を高めるために、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つの観点を重視して成績をつけます。		

教 科	芸術	科 目	美術 I	対 象	生活デザイン科 2年 選択者
単 位	2	主な授業形態	座学・実技		

目 標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○目標やねらいを的確に意識し、主体的に作品を制作することができる。 ○意図に応じて表現方法を創意工夫したり、画材の特徴を生かして個性豊かに表現している。 ○丁寧に作品を制作し、完成度を高めることができる。	○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて深く考え、創造的に発想したり、構想を練ったりすることができる。 ○価値意識をもって美術に対する見方や感じ方を深めることができる。	○主体的に美術の幅広い創造活動に取り組んでいる。 ○他人の作品を積極的に鑑賞し、良さや違いを発見し、多様な価値観に気づくことができる。 ○創意工夫をして真摯に製作に取り組み、作品を完成させることができる。
成長のプロセス	ステップ		
	○目標やねらいを意識し、主体的に作品を制作することができる。 ○意図に応じて表現方法を創意工夫したり、画材の特徴を生かして創造的に表現しようとしている。 ○丁寧に作品を制作することができる。	○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、創造的に発想したり、構想を練ったりすることができる。 ○美術に対する見方や感じ方を深め、意図や目的について考えることができる。	○積極的に美術の幅広い創造活動に取り組んでいる。 ○他人の作品を鑑賞し、良さや違いを発見し、多様な価値観に気づくことができる。 ○創意工夫をして作品を完成させることができる。
	ホップ		
	○目標やねらいを意識して作品を制作することができる。 ○表現方法や画材の特徴を知り、表現の幅を広げることができる。 ○丁寧に制作することを意識して取り組むことができる。	○教師による助言を参考にし、創造的に発想したり、構想を練ったりすることができる。 ○身の回りの美術について知り、興味関心を持ち、意義や価値について考えることができる。	○提出物や課題等、やるべきことを期日までに自分でやりきろうとする。 ○他人の作品を鑑賞し、良さや違いを発見することができる。 ○学んだ知識や技法を生かして作品を完成させることができる。

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「高校生の美術1」（日本文教出版）

準備物 中学で使った絵の具セット

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	・ 絵画 1（よく見て描く） 目の前のモチーフをよく観察し、鉛筆デッサンを描きます。 ・ 絵画 2（絵の具で描く） 絵の具を使って絵画を制作します。
2 学期	・ デザイン、立体造形 テーマに沿ってデザインを考え、立体で制作します。
3 学期	・ アニメーション コマ撮りアニメーションを制作します。

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 1つ1つの課題に対して目標と向上心を持って取り組む。
- ・ 授業時間を大切にして、毎回の授業に集中して取り組む。
- ・ 実技教科のため、作品は必ず完成させる。
- ・ 提出物に関しては、期限を守って提出する。
- ・ 絵画、デザイン、立体とまんべんなく取り組むので、苦手意識を減らす。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ 作品 ・ アイディアスケッチ	・ 作品 ・ アイディアスケッチ ・ ワークシート	・ 授業態度 ・ 準備物 ・ ワークシート
重みづけ	2	2	1
	美術の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得と、発想力や創造性の向上を図るために「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つの観点を重視して成績をつけます。		

教 科	芸術	科 目	書道 I	対 象	生活デザイン科 2 年選択者
単 位	2	主な授業形態	実技		

目 標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。（知識及び技能）
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力）
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。（学びに向かう力・人間性等）

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○作品や書のよさを感じ取り、それを言葉で表現し、伝えることができる。 ○自ら心に響く言葉を選定したり、表現したいことを明確にしたりして、その感興に基づき作品の構想を立てることができる。 ○試行錯誤をしながら、より良い作品に仕上げるため変化させることができる。	○様々な活動を通して、知識の幅を広げたり、深く考えたりできる。 ○生活や社会において書が果たしている役割や効用を模索し、それを尊重できる。 ○作品制作において、主体的に取り組み、創意工夫を繰り返すことができる。
	ステップ	○作品や書のよさを味わい、自分なりの考えを持つことができる。 ○言葉の持つイメージや、表現したいことを伝えることができる。 ○教師や友人からの助言を参考にし、より良い作品に仕上げようとするすることができる。	○様々な活動を通して、知識の幅を広げることができる。 ○生活や社会において書が果たしている役割や効用を考えることができる。 ○作品制作において、主体的に取り組み、より良い作品にしようとする態度がみられる。
	ホップ	○文字の点画の構成を理解し、用具用材を正しく使い、表現することができる。 ○書の伝統と文化について、興味を持つことができる。 ○資料を参考にしながら、表現したいことを構想に表すことができる。	○提出物や課題等、やるべきことを期日までに自分でやりきろうとする。 ○生活や社会の中で書がどのような場面で用いられているか考えることができる。 ○作品制作において、自分の表現を振り返り、学んだ知識と技能を生かして作品を完成させることができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「書道Ⅰ」（教育出版）

準備物 太筆

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	【漢字の書】楷書の学習 「九成宮醴泉銘」、「孔子廟堂碑」、「雁塔聖教序」、「顔氏家廟碑」の臨書 ・書風の違いを味わい、用筆・運筆法を身につける。 楷書の作品を創作しよう ・学んだ古典の特徴を生かし、創作する。
2 学期	【漢字の書】行書の学習 「蘭亭序」、「風信帖」の臨書 ・行書の特徴を知り、基本的用筆法を身につける。 ・書風の違いを味わい、表現する。 【篆刻】 自刻印を制作しよう ・篆書体の特徴を理解し、草稿をつくる。 ・印刀などの用具を正しく使い、印を彫る。
3 学期	【仮名の書】 「蓬萊切」「高野切第3種」の臨書 ・仮名の基本的用筆法を学び、平仮名、変体仮名を書く。 ・連綿の特徴を学び、連綿のある語句を書く。 ・古筆の良さを味わいながら臨書する。 【漢字仮名交じりの書】 オリジナルカレンダーの制作 ・これまでの学習で学んだことを生かし、個性を生かした表現で創作する。

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業時間を大切に、毎回の授業に熱心に取り組む。
- ・一つ一つの課題に対して目標と向上心を持って取り組む。
- ・実技教科なので、作品は必ず仕上げ提出する。
- ・日常生活の中で見られる書について関心を持ち、深い考察を心がける。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・作品 ・ワークシート	・作品 ・草稿、デザインアイディア ・ワークシート ・鑑賞シート	・授業態度 ・ワークシート ・感想、自己評価
重みづけ	2	2	1
	書道の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得と、発想力や創造性の向上を図るために、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つの観点を重視して成績をつけます。		

目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。**(知識・技能)**
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。**(思考・判断・表現)**
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。**(学びに向かう力・人間性等)**

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ ○教科書で扱われる英単語や文法事項について理解を深めている。 ○教科書で扱われる英単語や文法事項等の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	○外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
	ステップ ○教科書で扱われる英単語や文法事項を理解している。 ○教科書で扱われる英単語や文法事項等の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、活用できる技能を身に付けている。	○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる。	○外国語の背景にある文化を理解し、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
	ホップ ○教科書で扱われる英単語や文法事項について教師等の助力があればおおむね理解できる。 ○教科書で扱われる英単語や文法事項等の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、教師等の助力があればおおむね活用できる。	○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを教師等の助力があればおおむね理解したり、伝えたりすることができる。	○外国語の背景にある文化に興味を持ち、英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「All Aboard! English Communication II」 東京書籍
 副教材 「All Aboard! English Communication II ワークブック」 東京書籍
 「ビッグ・ディッパー高校英語」 数研出版
 「クラウン チャンクで英単語 Basic」 三省堂

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1学期	Lesson 1 A Colorful Island ブラーノ島 ・イタリアのブラーノ島への旅行を報告する SNS を通して、その島の特色について学習する。（関係代名詞 what） Lesson 2 With the Beatles サムのリクエスト ・曲をリクエストしたラジオ番組の聴衆者とディスクジョッキーの対話を通して、世代を超えて人気のあるバンドについて学習する。（比較表現：more, the most）
2学期	Lesson 3 Wild Men ワイルドマンの世界 ・ヨーロッパの国々の祭りに登場する「ワイルドマン」についてのスピーチを通して、人間社会と自然について考える。（it の用法） Lesson 4 Little Hero ハチドリのしずく ・世界最小の鳥であるハチドリを紹介する記事とハチドリの物語を通して、不断の努力と不屈の心について考える。（間接疑問文）
3学期	Lesson 5 Special Makeup in Kabuki 歌舞伎メイクの物語 ・日本の伝統文化である歌舞伎と隈取について学習する。

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として、教科書を読んでわからないところを見つけておく。
- ・自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・板書を写し取るだけでなく、自分の考えや疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、復習に役立つような工夫したノートづくりをする。
- ・提出物は丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。
- ・英語で日記をつける、英語の歌を覚えて歌う、興味のある分野について英語の記事を読む等、授業以外でも英語を使う機会を作ってみる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	英語の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得と表現力の向上を図るために、「知識・技能」「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。**(知識・技能)**
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。**(思考・判断・表現)**
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。**(学びに向かう力・人間性等)**

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○学んだ知識を用いて提案、紹介、依頼、説明、質問などの表現を短い文や句を使って運用できる。 ○自分の考えや気持ちを話す、書くなどして伝える基本的技能を身につけている。	○場面や状況を理解し、絵や地図のような視覚的補助や接続詞等の補助を使って提案、紹介、依頼、説明、質問などの表現が適切にできる。 ○助言や勧誘内容を理解し簡単な語彙を使ってそれに応える自分の考えや気持ちを詳しく伝え合っている。	○自身の活動や日常生活、状況を主体的に考えながら、積極的に活動に取り組もうとしている。 ○様々な補助を使い、基礎的な語彙や簡単な文を使って相手と自分の考えを詳しく伝え合おうとしている。
ステップ	○多少の誤りはあるが、学んだ知識を用いて提案、紹介、依頼、説明、質問などの表現を短い文や句を使って運用できる。 ○自分の考えや気持ちを話す、書くなどして伝える基本的技能を一部身につけている。	○場面や状況を理解し、絵や地図のような視覚的補助や接続詞等の補助を使って提案、紹介、依頼、説明、質問などの表現ができる。 ○助言や勧誘内容を理解し簡単な語彙を使ってそれに応える自分の考えや気持ちを伝え合っている。	○自身の活動や日常生活、状況を主体的に考えながら、活動に取り組もうとしている。 ○様々な補助を使い、基礎的な語彙や簡単な文を使って相手と自分の考えを伝え合おうとしている。
ホップ	○学んだ知識を用いて提案、紹介、依頼、説明、質問などの表現を短い文や句を使って多少の誤りがあるものの運用できる。 ○自分の考えや気持ちを話す、書くなどして伝える基本的技能をおおむね身につけている。	○場面や状況を理解し、絵や地図のような視覚的補助や接続詞等の補助を使って提案、紹介、依頼、説明、質問などの表現をしようとしている。 ○助言や勧誘内容を理解し簡単な語彙を使ってそれに応える自分の考えや気持ちをある程度表現できる。	○自身の活動や日常生活、状況を考えながら、活動に取り組もうとしている。 ○様々な補助を使い、基礎的な語彙や簡単な文を使って相手と自分の考えを何とか伝え合おうとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「MY WAY Logic and Expression」 （三省堂）
副教材 「BIG DIPPER 高校英語」 （数研出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	Lesson 1 Let' s talk about Ourselves ・ 現在形（Be 動詞）（一般動詞） Lesson 2 School Life ・ 過去形（be 動詞、一般動詞）、現在進行形、過去進行形 Lesson 3 The Arts ・ 未来表現、基本時制のまとめ
2 学期	Lesson 4 Food and Culture ・ 現在完了形 Lesson 5 Welcome to Our Town ・ 助動詞、受動態 Lesson 6 Traveling Abroad ・ 不定詞
3 学期	Lesson 7 Sports ・ 動名詞、分詞の後置修飾、分詞構文 Lesson 8 Everyday Technology ・ 比較

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として、教科書を読んでわからないところを見つけておく。
- ・ 文や文型、文法事項、語や連語の知識を整理、活用し、初級レベルの英作文に取り組む。
- ・ 様々な場面にふさわしい表現ができるように、簡単な英作文に取り組む。
- ・ 基本的な表現を口頭で再生し、その表現を使いながら身につけて短い発話や会話に取り組む。
- ・ 提出物は丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ 定期考査 ・ 小テスト ・ レポート（振り返りプリント） ・ インタビューテスト	・ 定期考査 ・ レポート（振り返りプリント） ・ インタビューテスト	・ ノート ・ レポート（振り返りプリント） ・ 提出物 ・ 長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	論理・表現の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目 標

家庭の生活にかかわる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、生活産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 生活産業の各分野における情報の意義や役割、情報及び情報技術を活用する方法について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(知識・技術)
- (2) 生活産業に関する課題を情報及び情報技術を活用して発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 生活産業における情報及び情報技術の活用や専門性の向上を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○衣生活、保育、家庭看護などのヒューマンサービスに係る情報を情報機器や情報通信ネットワークを活用し、収集、処理、分析することができる。 ○生活の質の向上や社会の発展を目指す職業人であることを意識して、職業人に求められる倫理観をもって。複数の情報と結び付けて新たな意味を見いだすことができる。	○積極的に情報機器や情報通信ネットワークを活用することや、自らの専門性の向上を図るために、主体的に学ぶことができる。 ○職業人として生活の質の向上と社会の発展のために、自ら考え行動するとともに、周囲の人と協働して取り組むことができる。
	ステップ	○衣生活、保育、家庭看護などのヒューマンサービスに係る情報を情報機器や情報通信ネットワークを活用することができる。 ○倫理観をもって。複数の情報と結び付けて新たな意味を見いだすことができる。	○積極的に情報機器や情報通信ネットワークを活用することや、自らの専門性の向上を図るために、学ぶことができる。 ○職業人として生活の質の向上のために、自ら考え行動するとともに、周囲の人と協働して取り組むことができる。
	ホップ	○衣生活、保育、家庭看護などのヒューマンサービスに係る情報を情報機器や情報通信ネットワークを活用しようと努力することができる。 ○複数の情報を結び付けて新たな意味を見出そうと努力することができる。	○積極的に情報機器や情報通信ネットワークを活用することや、自らの専門性の向上を図るために、学ぼうと努力することができる。 ○生活の質の向上のために、行動するとともに、周囲の人と協働して取り組もうとすることができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書「生活産業情報」 実教出版
副教材「30時間でマスター Word&Excel 2023」 実教出版
副教材「ビジネス文書実務検定模擬試験問題集3級」 実教出版

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	第1章 情報化の進展と社会 第2章 情報モラルとセキュリティ 情報モラルとマナー 情報通信ネットワークのしくみとセキュリティ管理
2 学期	第3章 コンピュータの基本情報 機能と動作を理解する 第5章 各種アプリケーションの基本操作 ビジネス文書実技検定受検
3 学期	第4章 生活産業におけるコミュニケーションと情報デザイン 第6章 生活産業に関連した情報デザイン

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・講義は教科書及び副教材、またプリント教材を中心に学習を進めるので、内容理解とあわせてプリントの整理を行う。
- ・実習は、コンピュータを活用しながら制作活動を個人またはグループで行う。授業を大切にその時間の課題に積極的に取り組む。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査 ・実技テスト	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や作品 ・長期休業中の課題	・実習への取り組み ・提出物（プリント等） ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	4	3	3
	ビジネス文書実技検定合格を授業の目的の一つとしているので、3観点をバランスよく身に付けるとともに、「知識・技術」の観点をやや重めに評価し、成績をつけます。		

目 標

家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。(知識及び技術)
- (2) 子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○子どもの健やかな発達に適した保育環境を整えることの重要性について思考を深め、保育を担う職業の意義を理解し、子どもの健やかな発達を促すための保育について考え、よりよい保育を創造し、課題を解決する方法を構想し、実践に移すことができる。 ○上記の学習活動について、根拠に基づいて論理的に表現することができる。	○子どもの健やかな発達には保育の充実が不可欠であることを認識し、自ら学び、保育に関心を持ち、保育に必要な知識と技術を進んで習得し、他者と協働しながら取り組むことができる。 ○与えられた課題を、期限までに主体的にやりきるとともに、自主的に保育の充実向上を目指して学ぶことができる。
	ステップ	○子どもの健やかな発達に適した保育環境を整えることの重要性について思考を深め、保育を担う職業の意義を理解し、子どもの健やかな発達を促すための保育について考え、解決策を構想することができる。 ○上記の学習活動について、根拠に基づいて表現することができる。	○子どもの健やかな発達には保育の充実が不可欠であることを認識し、自ら学び、保育に関心を持ち、保育に必要な知識と技術を進んで習得し、主体的に取り組むことができる。 ○与えられた課題を、主体的にやりきることができる。
	ホップ	○教師等の助言を頼りに、子どもの健やかな発達を促すための保育について課題を発見し、解決策を考えることができる。 ○上記の学習活動について、考えたことを表現することができる。	○保育に関心を持ち、教師等の助言を頼りに保育に必要な知識と技術の習得に取り組むことができる。 ○与えられた課題を、教師等による助言を頼りに、期限までにやりきろうと努力することができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「保育基礎」（実教出版）
副教材 学習プリント等

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1学期	子どもの保育 ・保育の意義 ・保育の方法 ・保育の環境 子どもの発達 ・子どもの発達の特性 ・子どものからだの発達 ・子どもの心の発達
2学期	子どもの生活 ・子どもの生活と養護 ・生活習慣の形成 ・健康管理と事故防止 ・ 保育園実習
3学期	子どもの文化 ・子どもの文化の意義と支える場 ・子どもの遊びと表現活動 子どもの福祉 ・子ども観 ・子どもの福祉 ・子育て支援

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・新聞の切り抜き等を利用し、身近なものとして保育を捉える。
- ・作品制作を通して、保育の重要性、関心を高める。
- ・講義で学習した知識や技術を生かして、保育園実習で実際に乳幼児と触れ合う。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や作品 ・長期休業中の課題	・保育実習への取り組み ・提出物（プリント、作品等） ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	4	3	3
	3観点バランスよく身に付けるとともに、子どもの発達や生活、保育についての学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」の観点をやや重めに評価し、成績をつけます。		

目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、保育を担う職業人として必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 子どもの表現活動や子育て支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。（知識及び技術）
- (2) 保育や子育て支援に関する課題を発見し、子どもを取り巻く環境の変化に対応した保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。（思考力、判断力、表現力等）
- (3) 保育の充実を目指して自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。（学びに向かう力・人間性等）

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○子どもの育ちや子育て支援に関して思考を深め、課題を発見し、子どもを取り巻く環境がめまぐるしく変化することに着目し、変化に対応しながらも子どもの健やかな発達を促すための保育について考え、よりよい保育を創造し解決策を実践に移すことができる。 ○上記の学習活動について、根拠に基づいて表現することができる。	○子どもの健やかな発達には保育の充実が不可欠であることを認識し、自ら学び、保育に必要な知識と技術を進んで習得し、他者と協働しながら取り組むことができる。 ○与えられた課題を、期限までに主体的にやりきるとともに、自主的に保育の充実向上を目指して学ぶことができる。
	ステップ	○子どもの育ちや子育て支援に関して思考を深め、課題を発見し、子どもを取り巻く環境がめまぐるしく変化することに着目し、変化に対応しながらも子どもの健やかな発達を促すための保育について考え、解決策を構想することができる。 ○上記の学習活動について、根拠に基づいて表現することができる。	○子どもの健やかな発達には保育の充実が不可欠であることを認識し、自ら学び、保育に必要な知識と技術を進んで習得し、主体的に取り組むことができる。 ○与えられた課題を、主体的にやりきることができる。
	ホップ	○教師等による解説や助言を頼りに、表現活動の重要性や子育て支援の意義と役割を捉えた上で、その特徴や課題などをおおむね理解し、子どもの健やかな発達を促すことができるように、保育や子育て支援に必要な技術をおおむね習得することができる。	○子どもの健やかな発達には保育の充実が不可欠であることを認識し、自ら学び、保育に必要な知識と技術の習得に取り組むことができる。 ○与えられた課題を、教師等による助言を頼りに、期限までにやりきろうと努力することができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「保育実践」 （実教出版） 「保育基礎」 （実教出版）
 副教材 「保育技術検定 過去問題集」 （全国高等学校家庭科教育振興会） 学習プリント等

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	子どもの発達 ・子どもの発育 実習 児童文化とは何だろう 子どもと表現活動 ・造る・描く 作品作りと発表
2 学期	子どもの生活と養護 ・生活と養護 看護体験実習 子どもと文学 ・絵本 子どもと遊び ・遊びの意義と発達 作品作りと発表
3 学期	子どもの生活 ・健康管理と事故防止 看護体験実習 子どもと表現活動 ・言語表現活動 ・歌う・踊る・演奏する 作品作りと発表

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業で学ぶ知識や技術を保育実習に生かせるように、自分自身の生活の中からも課題を見つけながら学習する。
- ・看護体験実習を行うことにより家庭での看護の基本的知識や技術を学習する。
- ・教科書やプリントを用いて、講義を受ける。
- ・絵本の読み聞かせや歌の練習、折り紙やパネルシアターなどの児童文化活動も取り入れる。
- ・保育技術検定を受検できるよう、計画的に学習する。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査 ・実技テスト	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や作品 ・長期休業中の課題	・実習への取り組み ・提出物 （プリント、作品等） ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	4	3	3
	3観点をバランスよく身に付けるとともに、保育についての学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」の観点をやや重めに評価し、成績をつけます。		

目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、服飾文化の伝承と創造を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 服飾の変遷と文化、着装などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(知識及び技術)
- (2) 服飾文化に関する課題を発見し、服飾文化の伝統と創造を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 豊かな衣生活の実現を目指して自ら学び、服飾文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○服飾の変遷と文化、着装などについて体系的・系統的に理解する。 ○服飾文化に関連する技術が身に付き、日常生活の中で適切に活かせる。 ○服飾に関する基礎的な技術を身に付け、丁寧に正確に課題作品を製作できる。	○服飾文化に関する課題を発見し、服飾文化の伝統と創造を担う職業人として合理的かつ創造的に解決できるよう、考え、工夫している。 ○製作実習において、学習した内容を理解し、作業したうえで正確に周囲にアドバイスできる。	○豊かな衣生活の実現を目指して自ら学び、服飾文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組もうとする。
ステップ	○服飾の変遷や文化、着装などについて、基礎的なものを理解している。 ○服飾に関連する技術を学習したのと同じような場面であれば、適切に使うことができる。 ○服飾に関する基礎的な技術を身に付け、正確に課題作品を製作できる。	○服飾文化に関する課題について、教師等による解説や助力を参考にして解決策を考え、工夫している。 ○製作実習において、理解できた内容を言葉や作業により正しく周囲に伝えることができる。	○課題等やるべきことを、期限までに、正確に仕上げる。 ○日常着の基本となるシャツまたはブラウスについての知識や技術を身に付け、正確に作品を仕上げようと取り組んでいる。
ホップ	○服飾の変遷や文化、着装について基礎的なものを知り、教師等による解説や助力を頼りに、おおむね理解できる。 ○服飾に関連する技術を学習したのと同じような場面であれば、周囲の助言があれば適切に使うことができる。 ○服飾に関する基礎的な技術を身に付け、課題作品を製作できる。	○服飾文化に関する課題について、教師等による解説や助力を頼りに解決策を考え、工夫できる。 ○製作実習において、理解できた内容を言葉や作業により表現できる。	○課題等やるべきことを、期限までに自分でやりきろうとする。 ○自分の学び方を振り返り、改善すべき点を知り、努力できる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「服飾文化」 （教育図書）

副教材 「家庭科問題集 被服編」 （全国高等学校家庭科教育振興会）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	日常着の製作
2 学期	手芸作品の製作 ・ 刺しゅう ・ 編み物 棒針編みの基礎
3 学期	編み物作品の製作

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 服飾に関心を持ち、服飾の変遷や文化、着装などについて理解し、実生活で取り入れるようにする。
- ・ 被服に関する基礎的な知識と技術を習得し、生活スタイルに合った作品の着装について工夫する。
- ・ 作品は正確に仕上げて、期限を守って提出する。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ 提出作品 ・ 定期考査	・ 定期考査 ・ 授業における発表や作品 ・ レポート ・ 長期休業中の課題	・ 製作時の取り組み ・ 振り返りシート、感想 ・ 長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

教科	家庭	科目	服飾文化	対象	2年生 生活デザイン科 保育子ども文化コース
単位	2	主な授業形態	実習・実技		

目 標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、服飾文化の伝承と創造を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 服飾の変遷と文化、着装などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(知識及び技術)
- (2) 服飾文化に関する課題を発見し、服飾文化の伝統と創造を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 豊かな衣生活の実現を目指して自ら学び、服飾文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○服飾の変遷と文化、着装などについて体系的・系統的に理解する。 ○服飾文化に関連する技術が身に付き、日常生活の中で適切に活かせる。 ○服飾に関する基礎的な技術を身に付け、丁寧に正確に課題作品を製作できる。	○服飾文化に関する課題を発見し、服飾文化の伝統と創造を担う職業人として合理的かつ創造的に解決できるよう、考え、工夫している。 ○製作実習において、学習した内容を理解し、作業したうえで正確に周囲にアドバイスできる。	○豊かな衣生活の実現を目指して自ら学び、服飾文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組もうとする。
ステップ	○服飾の変遷や文化、着装などについて、基礎的なものを理解している。 ○服飾に関連する技術を学習したのと同じような場面であれば、適切に使うことができる。 ○服飾に関する基礎的な技術を身に付け、正確に課題作品を製作できる。	○服飾文化に関する課題について、教師等による解説や助力を参考にして解決策を考え、工夫している。 ○製作実習において、理解できた内容を言葉や作業により正しく周囲に伝えることができる。	○課題等やるべきことを、期限までに、正確に仕上げる。 ○作業着の基本となるエプロンについての知識や技術を身に付け、正確に作品を仕上げようと取り組んでいる。
ホップ	○服飾の変遷や文化、着装について基礎的なものを知り、教師等による解説や助力を頼りに、おおむね理解できる。 ○服飾に関連する技術を学習したのと同じような場面であれば、周囲の助言があれば適切に使うことができる。 ○服飾に関する基礎的な技術を身に付け、課題作品を製作できる。	○服飾文化に関する課題について、教師等による解説や助力を頼りに解決策を考え、工夫できる。 ○製作実習において、理解できた内容を言葉や作業により表現できる。	○課題等やるべきことを、期限までに自分でやりきろうとする。 ○自分の学び方を振り返り、改善すべき点を知り、努力できる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「服飾文化」 （教育図書）

副教材 「家庭科問題集 被服編」 （全国高等学校家庭科教育振興会）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	作業着の製作
2 学期	手芸作品の製作 ・ 刺しゅう ・ 編み物 棒針編みの基礎
3 学期	編み物作品の製作

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 服飾に関心を持ち、服飾の変遷や文化、着装などについて理解し、実生活で取り入れるようにする。
- ・ 被服に関する基礎的な知識と技術を習得し、生活スタイルに合った作品の着装について工夫する。
- ・ 作品は正確に仕上げて、期限を守って提出する。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ 提出作品 ・ 定期考査	・ 定期考査 ・ 授業における発表や作品 ・ レポート ・ 長期休業中の課題	・ 製作時の取り組み ・ 振り返りシート、感想 ・ 長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目 標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ファッションの造形を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。(知識及び技術)
- (2) 被服製作やデザインに関する課題を発見し、ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長の プロセス	ジャンプ	○被服製作やデザインに関する課題を発見し、ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決できるよう考え、工夫している。 ○製作実習において、学習した内容を理解し、作業したうえで正確に周囲にアドバイスできる。	○衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組もうとする。
	ステップ	○ファッション造形の基礎に関する課題について、教師等による解説や助力を参考にして解決策を考え、工夫している。 ○製作実習において、理解できた内容を言葉や作業により正しく周囲に伝えることができる。	○課題等やるべきことを、期限までに、正確に仕上げる。 ○洋服の基本となるシャツブラウスやスカート、ジャケットについての知識や技術を身に付け、正確に作品を仕上げようと取り組んでいる。
	ホップ	○ファッション造形の基礎に関する課題について、教師等による解説や助力を頼りに解決策を考え、工夫できる。 ○製作実習において、理解できた内容を言葉や作業により表現できる。	○課題等やるべきことを、期限までに自分でやりきろうとする。 ○自分の学び方を振り返り、改善すべき点を知り、努力できる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「ファッション造形基礎」 （実教出版）
 副教材 「家庭科問題集 被服編」 （全国高等学校家庭科教育振興会）
 「被服製作資料」 （全国高等学校家庭科技術検定委員会）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	被服の構成 ・人体と衣服 洋服の製作 ・製作の基礎 ・シャツブラウスの製作
2 学期	洋服の製作 ・裏付きジャケットの製作
3 学期	洋服の製作 ・裏付きジャケットの製作 ・裏付きスカートの製作

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・被服製作を通して、被服の構成や被服材料の種類や特徴を理解し、今後のファッションの造形に活かせるようにする。
- ・実習を通して、洋服製作の基礎を身に付けるようにする。
- ・作品については期限内に完成させることを目標に、毎時間計画を立てて能率良く実習を行う。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・提出作品 ・定期考査	・定期考査 ・授業における発言や作品 ・長期休業中の課題	・製作時の取り組み、進捗 ・振り返りシート、感想 ・長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ファッション産業を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) ファッションデザインの基礎、発想や表現の方法などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(知識及び技術)
- (2) ファッションデザインに関する課題を発見し、ファッション産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) ファッション産業の発展を目指して自ら学び、ファッションの創造的なデザインに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○ファッションデザインの基礎、発想や表現方法などについて体系的・系統的に理解する。 ○ファッションデザインに関連する基礎的な技術が身に付き、日常生活の中で適切に活かせる。 ○ファッションデザインに関わる基礎的な技術を身に付け、丁寧に分かりやすく表現できる。	○ファッションデザインに関する課題を発見し、ファッション産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決できるよう考え、工夫している。 ○制作実習において、学習した内容を理解し、作業したうえで正確に周囲にアドバイスできる。	○ファッション産業の発展を目指して自ら学び、ファッションの創造的なデザインに主体的かつ協働的に取り組もうとする。 ○課題等やるべきことを、期限までに、正確に仕上げる。
ステップ	○ファッションデザインの基礎、発想や表現方法などについて、基礎的なものを理解している。 ○ファッションデザインに関連する基礎的な技術を学習したのと同じような場面であれば、適切に使うことができる。 ○ファッションデザインに関する基礎的な技術を身に付け、課題作品を制作できる。	○ファッションデザインに関する課題について、教師等による解説や助力を参考にして解決策を考え、工夫している。 ○制作実習において、理解できた内容を言葉や作業により正しく周囲に伝えることができる。	○課題等やるべきことを、期限までに仕上げる。 ○ファッション産業に関する知識や技術を身に付け、正確に作品を仕上げようと取り組んでいる。
ホップ	○ファッションデザインの基礎、発想や表現方法などについて基礎的なものを知り、教師等による解説や助力を頼りに、おおむね理解できる。 ○ファッションデザインに関連する基礎的な技術を学習したのと同じような場面であれば、周囲の助言があれば適切に使うことができる。 ○ファッションデザインに関する基礎的な技術を身に付け、課題作品を制作できる。	○ファッションデザインに関する課題について、教師等による解説や助力を頼りに解決策を考え、工夫できる。 ○制作実習において、理解できた内容を教師等の助力を頼りに、言葉や作業により表現できる。	○課題等やるべきことを、期限までに自分でやりきろうとする。 ○自分の学び方を振り返り、改善すべき点を知り、努力できる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「ファッションデザイン」 （実教出版）

副教材 「ファッション&ビューティーの色彩」 （日本色研事業株式会社）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	ファッションデザインを学ぶ意義 ・ファッションデザインの考え方 ・ファッションの変遷と流行 ファッションデザインの基礎 ・ファッションデザインの発想と表現法 ・ファッションデザイン画
2 学期	ファッションデザインの基礎 ・ファッションデザインと色彩 ・ファッションデザインと形態
3 学期	ファッション産業 ・ファッション産業の仕組み ・商品企画

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・講義や調べ学習等を通して身の回りのファッションデザインに興味関心を持つ。
- ・ファッション画や色彩の様々な表現方法を、実習を通して身につける。
- ・提出物は丁寧に仕上げて、期限を守り提出する。
- ・アパレルメーカーにおける商品企画を取り上げ、企画書やファッションマップの作成の実習を通して商品企画の基礎・基本を理解する。
- ・自分のファッションデザインに関する発想を、相手にわかるように表現する。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物・作品 ・長期休業中の課題	・提出物 ・感想 ・長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

家庭の生活にかかわる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける（知識及び技術）
- (2) 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。（思考力、判断力、表現力）
- (3) 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。（学びに向かう力・人間性等）

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなど、フードデザインに必要な要素について、相互に関連付けて理解し、生活の中で活かすことができる。 ○指示された献立について、教師等の師範や助言を頼りに適切に調理し、かつ生活の中で活かすことができる。	○食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を目指し、合理的かつ創造的に解決する方法を構想し、実践に移すことができる。 ○上記の学習活動について、根拠に基づいて論理的に表現することができる。	○実習に清潔な服装で衛生面に気をつけて参加し、主体的かつ協働的に調理に取り組むとともに、調理技術の向上のために、自ら努力することができる。 ○与えられた課題を、期限までに主体的にやり切るとともに、自主的に食生活の充実向上を目指して学ぶことができる。
ステップ	○栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなど、フードデザインに必要な各要素について、相互に関連付けて理解している。 ○指示された献立について、教師等による師範や助言を頼りに、適切に調理することができる。	○自分の食生活と健康についての関連だけでなく、食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上のために、解決策を構想することができる。 ○上記の学習活動について、根拠に基づいて表現することができる。	○実習に清潔な服装で、衛生面に気を付けて参加し、主体的に調理に取り組むことができる。 ○与えられた課題を、主体的に期限までにやりきることができる。
ホップ	○栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなど、フードデザインに必要な各要素について、教師等による解説や助言を頼りにおおむね理解できる。 ○指示された献立について、教師等による師範や助言を頼りに、おおむね調理することができる。	○教師等の助言を頼りに、自分の食生活の課題を発見し、健康的な食事について考えることができる。 ○上記の学習活動について、考えたことを表現することができる。	○実習に清潔な服装で、衛生面に気をつけて参加することができる。 ○与えられた課題を、教師等による助言をたよりに、期限までやりきろうと努力することができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「フードデザイン」（実教出版）

副教材 「オールガイド食品成分表」（実教出版）

「家庭科問題集 食物編」（全国高等学校家庭科教育振興会）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容	
1 学期	第1章 食生活と健康 第2章 栄養素のはたらきと食事計画	フードデザイン実習・実験
2 学期	第3章 食品の特徴・表示・安全 第4章 調理の基本	フードデザイン実習・実験
3 学期	第6章 献立作成 第7章 食育 第5章 料理様式とテーブルコーディネート	フードデザイン実習・実験

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネート等の知識については、授業に主体的に取り組み、理解するよう努める。学んだ内容は実生活と関連付けて、生活の中で活用する。
- ・日常生活において、自らの食生活が自分の健康だけでなく社会的な課題（フードロス、環境問題など）とかかわっていることを意識する。
- ・提出物は、期限内に必ず提出する。
- ・実習については、指定の服装で参加し、積極的に調理に取り組む。（やむを得ない理由で参加できない場合は、レポートを提出し、身につける内容について補う努力をする）
- ・学んだ食品の特性や調理理論を活用し、料理コンクールに応募する料理を考える。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査 ・実技テスト	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や作品 ・長期休業中の課題	・実習への取り組み ・提出物（プリント、調理ノート等） ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	4	3	3
	実技の授業が多く、食生活に関する知識の習得とともに、技術の習得に重きを置いた科目です。 3 観点をバランスよく身に付けるとともに、「知識・技能」の観点をやや重めに評価し、成績をつけます。		

目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。（知識及び技術）
- (2) 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人としての合理的かつ創造的に解決する力を養う。（思考力、判断力、表現力等）
- (3) 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。（学びに向かう力・人間性等）

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活を総合的にデザインする力を活用し、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造し課題を解決する方法を構想し、実践に移すことができる。 ○上記の学習活動について、根拠に基づいて論理的に表現することができる。	○食生活の充実向上を目指し、実習に清潔な服装で衛生面に気をつけて参加し、主体的かつ協働的に調理に取り組むとともに、調理技術向上のために、自ら努力することができる。 ○与えられた課題を、主体的にやりきることができる。
	ステップ	○食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活を総合的にデザインする力を活用し、より豊かな食生活を創造し課題を解決する方法を構想することができる。 ○上記の学習活動について、根拠に基づいて表現することができる。	○食生活の充実向上を目指し、実習に清潔な服装で衛生面に気をつけて参加し、主体的に調理に取り組むことができる。 ○与えられた課題を、主体的に期限までにやりきることができる。
	ホップ	○教師の助言を頼りに、食生活の現状から課題を発見し、解決策を考えることができる。 ○上記の学習活動について、考えたことを表現することができる。	○実習に清潔な服装で衛生面に気をつけて参加することができる。 ○与えられた課題を、教師等による助言に頼り、期限までにやりきろうと努力することができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「フードデザイン」 （実教出版）

副教材 「オールガイド食品成分表」 （実教出版） 「学習ノート」 （実教出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	食生活と健康 栄養素のはたらきと食事計画 フードデザイン実習
2 学期	食品の特徴・表示・安全 調理の基本 フードデザイン実習
3 学期	調理の基本 献立作成 料理様式 フードデザイン実習

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・教科書・補助教材を用いて講義を受けるとともに、実験実習も行う。
- ・講義で学習した知識を生かして、場面に応じた献立やテーブルコーディネートを考え、調理実習する。
- ・調理実習ノートに献立の作り方、調理の要点などを記入して提出する。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・調理ノート ・レポート ・授業における発表や成果物 ・長期休業中の課題	・実習への取り組み ・調理ノート ・提出物 （プリント、作品等） ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	4	3	3
	3観点をバランスよく身に付けるとともに、食生活や調理についての知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」の観点をやや重めに評価し、成績をつけます。		

目 標

家庭の生活にかかわる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、創造的に調理し、健康の保持増進に寄与する食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 調理の基礎、献立作成及び様式別調理などについて、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(知識及び技術)
- (2) 食生活の現状から調理に関する課題を発見し、調理を通して食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 調理の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、創造的な調理に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○食生活の現状から調理に関する課題を発見し、食生活の充実向上を目指し、合理的かつ創造的に解決する方法を構想し、実践に移すことができる。 ○上記の学習活動について、根拠に基づいて論理的に表現することができる。	○実習に清潔な服装で衛生面に気を付けて参加し、主体的かつ協働的に調理に取り組むとともに、調理技術の向上のために、自ら努力することができる。 ○与えられた課題を、期限までに主体的にやり切るとともに、自主的に食生活の充実向上を目指して学ぶことができる。
	ステップ	○自分の食生活と健康についての関連だけでなく、食生活の現状から調理に関する課題を発見し、食生活の充実向上のために、解決策を構想することができる。 ○上記の学習活動について、根拠に基づいて表現することができる。	○実習に清潔な服装で、衛生面に気を付けて参加し、主体的に調理に取り組むことができる。 ○与えられた課題を、主体的に期限までにやりきることができる。
	ホップ	○教師等の助言を頼りに、自分の食生活の調理に関する課題を発見し、健康的な食事について考えることができる。 ○上記の学習活動について、考えたことを表現することができる。	○実習に清潔な服装で、衛生面に気を付けて参加することができる。 ○与えられた課題を、教師等による助言をたよりに、期限までやりきろうと努力することができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

副教材 「調理1」「調理2」（実教出版）
教科書 「フードデザイン」（実教出版）
副教材 「オールガイド食品成分表」（実教出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	調理の種類と献立 お弁当 日本料理 調理実習
2 学期	調理の種類と献立 西洋料理 中国料理 行事食・供応食 調理実習
3 学期	調理の種類と献立 日本料理 西洋料理 中国料理 調理実習

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・調理の基礎、献立作成及び様式別調理等の知識については、授業に主体的に取り組み、理解するよう努める。学んだ内容は実生活と関連付けて、生活の中で活用する。
- ・日常生活において、自らの食品の扱い方・調理手順や技術の活用が、食生活の充実向上につながることを意識する。
- ・提出物は、期限内に必ず提出する。
- ・実習については、指定の服装で参加し、積極的に調理に取り組む。（やむを得ない理由で参加できない場合は、レポートを提出し、身につける内容について補う努力をする）
- ・食物調理技術検定2級の取得に挑戦する。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査 ・実技テスト	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や作品 ・長期休業中の課題	・実習への取り組み ・提出物（プリント、調理ノート等） ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	4	3	3
	実技の授業が多く、食生活に関する知識の習得とともに、技術の習得に重きを置いた科目です。3 観点をバランスよく身に付けるとともに、「知識・技能」の観点をやや重めに評価し、成績をつけます。		

教科	家庭科	科目	さぬきの生活伝承	対象	2年生	生活デザイン科
単位	2	主な授業形態	座学・実習・実技			

目 標

自分たちが生まれ育った郷土の生活文化について学ぶことを通し、郷土に対する愛着心を持つとともに、生活文化の伝承や創造に寄与する能力や態度を育てる。

- (1) 食文化の成り立ちや日本の食文化について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。また、手工芸品の製作技術を身につけるとともに郷土の生活文化について理解する。(知識及び技術)
- (2) 食生活の現状から食文化に関する課題を発見し、食文化の伝承と創造を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 食生活の充実向上と、地域や各家庭に伝わる生活文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○指示された献立について、成り立ちを理解するとともに、教師等の師範や助言を頼りに適切に調理し、かつ生活の中で活かすことができる。 ○手工芸に関する背景について理解し、基礎的な技術を身に付け、丁寧に正確に課題作品を制作できる。	○食生活の現状から食文化に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する方法を構想し、実践に移すことができる。 ○制作実習において、学習した内容を理解し、作業したうえで正確に周囲にアドバイスできる。	○家庭に伝わる生活文化の伝承に向け、技術向上のために自ら努力することができる。 ○与えられた課題を、期限までに主体的にやり切るとともに、自主的に生活の充実向上を目指して学ぶことができる。 ○学習した内容を自分の家族や友人等に伝えていくことができる。
ステップ	○指示された献立について、成り立ちを理解するとともに、教師等の師範や助言を頼りに適切に調理することができる。 ○手工芸に関する背景を知り、基礎的な技術を身に付け、正確に課題作品を制作できる。	○食生活の現状から食文化に関する課題を発見し、解決策を構想することができる。 ○制作実習において、理解できた内容を言葉や作業により正しく周囲に伝えることができる。	○家庭に伝わる生活文化の伝承に向け、主体的に取り組むことができる。 ○課題等やるべきことを、期限までに、正確に仕上げることができる。
ホップ	○指示された献立について、教師等による解説や助言を頼りにおおむね理解できる。 ○手工芸に関する基礎的な技術を身に付け、課題作品を制作できる。	○教師等の助言を頼りに、自分の食生活の食文化に関する課題を発見し、健康的な食事について考えることができる。 ○製作実習において、理解できた内容を言葉や作業により表現できる。	○家庭に伝わる生活文化の伝承について考えようとすることができる。 ○課題等やるべきことを、期限までに自分でやりきろうとする。

■何によって学ぶのか（使用教材）

プリント教材

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容			
1 学期	【 衣生活分野 】		【 食生活分野 】
	香川県の伝統工芸品 着付け		春の食品加工 春の郷土料理 調理実習 夏の郷土料理 調理実習
2 学期	保多織について 作品制作		秋の郷土料理 調理実習 全国の郷土料理調べ 和三盆の型抜き 調理実習
	郷土のかがり手まりについて 作品制作		校外学習
3 学期	水引について 作品制作		冬の郷土料理 調理実習
			春の食品加工をいかした和菓子 調理実習

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・自分の郷土の生活文化を意識しながら授業に臨み、生活文化の継承や基礎的知識や技術の習得を目指す。
- ・手工芸品の製作では、技術を身につけるとともに、その手工芸品が作られるようになった背景についても考察する。
- ・提出物は丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。
- ・自分の生活を充実向上させるため、学習したことを生活の場に積極的に取り入れる。
- ・校外学習では体験を通して主体的に学ぶ。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・定期考査 ・実習で製作した作品	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物	・授業における発表や成果物 ・振り返りシート、感想 ・レポート
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

2年組番	氏名
------	----